

「そうは問屋が許さない」24% 「上や下への大騒ぎ」59%

その慣用句大丈夫？

「上や下への大騒ぎ」59%、「そうは問屋が許さない」24%。文化庁が実施した国語に関する世論調査で、多くの慣用句が誤った言い回しで使われている実態が七日、明らかになった。

文化庁国語世論調査

逆の意味に誤解も

慣用句の使い方	使われ方	混乱した様子	上や下への大騒ぎ	59%
		◎上を下への大騒ぎ		21%
◎そうは問屋が許さない	◎そうは問屋が許さない	◎そうは問屋が許さない		68%
		◎そうは問屋が許さない		24%
◎熱にうかされる	◎熱にうかされる	◎熱にうかされる		48%
		◎熱にうかされる		36%
◎本人の力量に対し役目が重すぎる	◎本人の力量に対し役目が重すぎる	◎本人の力量に対し役目が重すぎる		50%
		◎本人の力量に対し役目が軽すぎる		40%
◎傾向に乗って勢いを増す行為	◎傾向に乗って勢いを増す行為	◎傾向に乗って勢いを増す行為		18%
		◎傾向に逆らい勢いを失わせる行為		62%
◎相手に遠慮をしなくてよい	◎相手に遠慮をしなくてよい	◎相手に遠慮をしなくてよい		42%
		◎相手に遠慮をしなくてはならない		48%
◎おもしろくない	◎おもしろくない	◎おもしろくない		31%
		◎恐ろしくない		54%
◎いきなり、急に	◎いきなり、急に	◎いきなり、急に		44%
		◎ゆっくりと		41%

◎が本来の使用法、意味
（文化庁国語世論調査）

「ぞっとしない」「流れにさおさす」などの慣用句の意味を誤解している人も多く、文化庁国語調査は「大半の人が逆の意味で使っている言葉もある。本来の意味をもっと少し意識するようになってほしい」としている。

調査は今年二・三月、全国の十六歳以上の男女約三千四百人を対象に実施。千九百四十三人から回答を得た。

混乱ぶりを表現する慣用句として本来の「上を下への大騒ぎ」を使つたのは21%だったのに対し、

誤った「上や下への大騒ぎ」は約三倍の59%。夢中になることを本来の「熱にうかされる」としたのは36%で、慣用句の「熱にうかされる」の48%を12%下回った。「そうは問屋が許さない」と正しく使つた人は68%と多数だったが、「そうは問屋が許さない」とした人も四人に一人に当たる24%いた。

慣用句の意味を間違った意味で、傾向に乗って勢いを増すことを表す「流れにさおさす」を「傾向に逆らう」とした人は6%で、正答した18%の三倍強に。相手に遠慮がいらないという意味の「気が置けない」を「遠慮がける」としてとらえている人は48%。ゆつゝとした動きの「やおら」を「いきなり、急に」とした人も

なり、急に」とした人も44%いた。おもしろくないことを表す「ぞっとしない」を「恐ろしくない」と答えた人は六十歳以上で43%だったが、十代は81%（全年代で54%）。「上や下への大騒ぎ」も十代34%に対し、六十歳以上は64%となるなど世代間の差が目立った。

「新聞読む」79%が回答

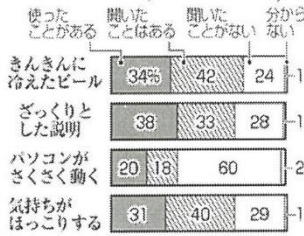
文化庁が七日発表した国語世論調査では、新聞を「よく読む」「時々読む」と答えた人が計79%で、「あまり読まない」「全く読まない」の計21%を大きく上回った。しかし、十六・二十九歳の若い世代では「全く読ま

ない」の回答も18%に上り、新聞離れの実態も浮かび上がった。

「読む」層を世代別で見ると、十代が51%と最も低く、四十代以上はいずれも80%を超え、最も高い五代では88%だった。一方、「読まない」と答えたのは三十代で26%、四十代以上は12～16%。十代は49%とほぼ半数に達し、二十代も46%と高率で、両世代とも全く読まない」という人が18%を占めた。

地域別で最も「読む」と答えた人が多かったのは北陸の95%。東北は北海道、中部に続き80%だった。逆に「読まない」が多かったのは四国の27%だった。

この表現、使いますか？



※四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。文化庁の国語世論調査

「ざっくり」- 使う人38%

「きんきんに冷えたビール」「ざっくりとした説明」。近年、耳にするようになったこうした表現を使う人は3人に1人以上いることが24日、文化庁の2012年度国語に関する世論調査で分かった。文化庁は「従来の使い方から派生したもので、すでにマスメディアや日常会話に広く登場している。新たな用法として定着する可能性は高い」としている。

国語世論調査

十分に冷えた様子を「きんきん」と表現したことがある人は34%で、使わない場合も含めて聞いたことがある人は76%だった。世代別に見ると、最もよく使うのは30代の62%。サラリーマン世代の20、40代は過半数が使っており、60代以上は13%で、世代間の差が見られた。

「きんきん」はもともと、声が高く響く様子やすごく痛むことを示す擬態語。文化庁は、中途半端な状態ではないというイメージから、よく冷えた様子を表す意味が派生したとみている。

ビール「きんきん」心「ほっこり」も定着？

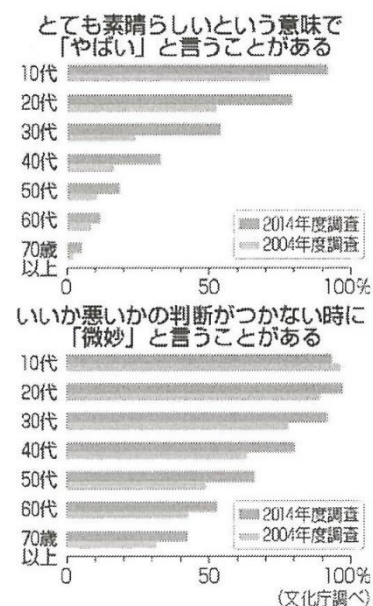
文化庁は「正答率が上がったのは過去の調査で話題になった影響だろう。『伝家の宝刀』は野球中継などで使われ、男性にはなじみが深いのではない」としている。

「ざっくり」を使う人は38%で、聞いたことがある人も含めると71%。細み目が粗いことを表す際に使われていたものが、大ざっぱという新たな意味につながったようだ。ほかに、ほかほかと暖かいことを表す「ほっこり」を、心にぬくもりを感じるという意味で使う人は31%。「さくさく」は従来、野菜などが抵抗なく切れるさまを表すが、20%は「パソコンがさくさく動く」（軽快に動く）という言い回しに活用していた。言葉の意味の理解度も調査。物事の肝心な点を確実に捉えるという意味の慣用句を「的を射る」と正答したのは52%。過半数が「的を得る」と間違えた03年度調査に比べ、正答率が13%上がった。とおきの手段の「伝家の宝刀」は04年度より14%多い55%が正答。男性の正答率は73%だった一方、女性は39%で男女差が大きかった。

国語に関する世論調査
社会の変化に伴う日本人の国語意識や理解の現状を調べて施策の参考にするため、文化庁が1995年度から毎年実施している。言方葉の意味や慣用句の言い方を調査しており、今回は他人とのコミュニケーションの取り方や手紙の書き方なども調べた。今回の調査は2013年3月に実施し、16歳以上の3523人が対象。2153人が回答した。

「やばい」は良い意味？

文化庁 国語世論調査



本来は不都合であることや危険で、あることを意味する「やばい」を、
「とても素晴らしい」などと良い意味で言うことがある人は、10代で91・5%、20代で79・1%に上ることが17日、文化庁の2014年度国語に関する世論調査で分かった。全体では04年度調査から8・7ポイント増の

10代の91%、20代の79%使用

26・9%。

いいか悪いかの判断がつかない時に「微妙」と言うのは8・4ポイント増の66・2%。10〜30代で90%を超え、文化庁は「若い世代は、悪いもののユアンスを伝える時に使う傾向がある」とみている。
面倒くさいことや不快感を表す際に「うざい」と言うのは3・0ポイント増の20・0%。「私は」を「私的には」、「話をしていた」を「話とかしていた」と言う「ぼかし言葉」の使用割合も増えた。

国語に関する世論調査 社会の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状を調べ、興味や関心を持ってもらう施策の参考にするため、文化庁が1995年度から毎年実施。今回調査は2015年1〜2月、16歳以上の男女3493人を対象とし、1942人が回答した。言葉や慣用語の意味や言い方、使用頻度のほか、社会や家庭での言葉遣いについても調べた。

「青田買い」本来の用法増える

文化庁が17日に公表した国語に関する世論調査では、慣用語などの理解度も調べた。「枯れ木も山のにぎわい」は、本来とは異なる意味を選ぶ人の割合が増える一方、「青田買い」は、本来の使い方に戻る傾向が出た。
「枯れ木も」の意味を聞くと「人が集まればにぎやかになる」を選んだのが47・2%（上り、本来の「つまらないものでも無いよ」の「つまらないものでも無いよ」が31・9%（同34・2%）で、この10年で逆転した。

慣用語などの言い方や意味の調査結果

「枯れ木も山のにぎわい」の意味は	
つまらないものでも無いよりはまし	37.6% (38.6%)
人が集まればにぎやかになる	47.2 (35.5)

「おもむろに」の意味は	
ゆっくりと	44.5
不意に	40.8

「企業が学生を早い時期に採用すること」の表現はどちら	
青田買い	47.4 (29.1)
青田刈り	31.9 (34.2)

「心配や不安を感じ、表情に出すこと」の表現はどちら	
眉をひそめる	44.5
眉をしかめる	44.5

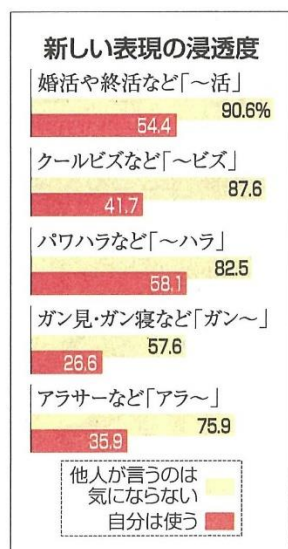
※太字は本来の意味・言い方。()内は2004年度調査結果。文化庁調べ

年代問わず「〰活」浸透

就活や婚活など「活動」を略す「〰活」との表現が、若者から高齢者までの幅広い世代で浸透していることが25日、文化庁の2019年度国語に関する世論調査で分かった。慣用句を本来の意味で捉えていたのは、「敷居が高い」「浮足立つ」で3割に届かなかった。

新しい表現を他人が言うのは気になるかを聞いたところ、「〰活」は90・6%が「気にならない」と回答。70代以上でも80・0%が許容した。人生の終わりに備える「終活」や、流行のタピオカ飲料を楽しむ「タピ活」など応用範囲が広く、文化庁

19年度 国語世論調査



新しい表現を他人が言うのは気になるかを聞いたところ、「〰活」は90・6%が「気にならない」と回答。70代以上でも80・0%が許容した。人生の終わりに備える「終活」や、流行のタピオカ飲料を楽しむ「タピ活」など応用範囲が広く、文化庁

「敷居が高い」など 正しく理解 3割未満

の担当者は「世代に関係なく、多くの人がなじんでいる」と分析している。パワハラやセクハラの「〰ハラ」は82・5%、クールビズなどの「〰ビズ」は87・6%、アラサーのように年齢の前後を意味する「アラ〰」は75・9%が違和感を抱いていない。慣用句では、「敷居が高い」を本来の意味の相手に不義理をして行きにくいと答えたのは29・0%で、56・4%が「高

級すぎたり上品すぎたりして入りにくい」を選んだ。「浮足立つ」は、本来の「恐れや不安で落ち着かずそわそわしている」が26・1%だったのに対し、「喜びや期待で落ち着かずそわそわしている」が60・1%だった。

「前に負けた相手に勝つこと」を表現する際に「雪辱を晴らす」を正しく理解する人は38・3%だった。調査は今年2～3月に実施し、全国の1994人が回答した。

慣用句の意味をどう理解しているか

慣用句	理解内容	割合
手をこまねく	何もせずに傍観している	37.2%
	準備して待ち構える	47.4%
敷居が高い	相手に不義理をして行きにくい	29.0%
	高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい	56.4%
浮足立つ	喜びや期待で落ち着かずそわそわしている	60.1%
	恐れや不安で落ち着かずそわそわしている	26.1%

慣用句の意味をどう理解しているか		
慣用句の意味	手をこまねく	何もせずに傍観している ● 37.2%
		準備して待ち構える 47.4%
敷居が高い	相手に不義理をして行きにくい	● 29.0%
	高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい	56.4%
浮足立つ	喜びや期待で落ち着かずそわそわしている	60.1%
	恐れや不安で落ち着かずそわそわしている	● 26.1%
慣用句の使い方	今までのことを改め、最初から始めること	新規まき直し ● 42.7%
		新規まき返し 44.4%
	前に負けた相手に勝つこと	雪辱を果たす ● 38.3%
		雪辱を晴らす 50.5%
よく分かるように丁寧に説明すること	噛(か)んで含むように	31.9%
	噛んで含めるように	● 50.5%

〔●は本来の意味、使用法〕